

2022年5月25日

報道関係各位

株式会社 JTOWER

株式会社 FLARE SYSTEMS

## **JTOWERのローカル5G共用機とFLARE SYSTEMSのソフトウェア基地局において、準同期TDDの接続試験に成功**

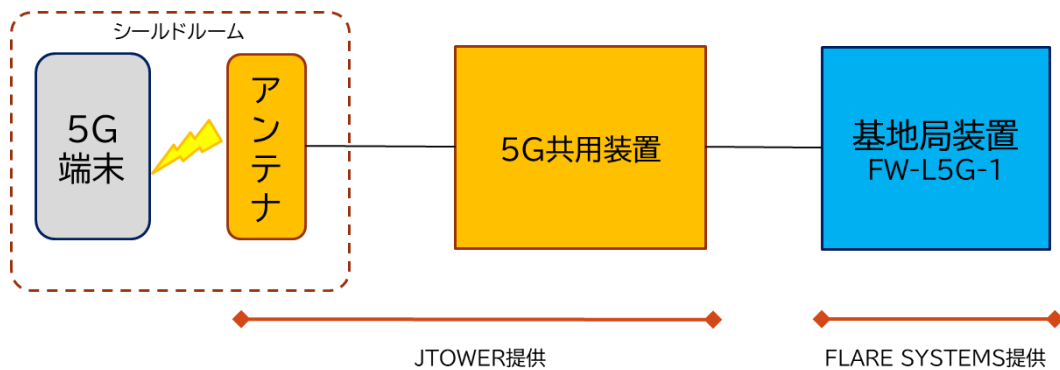
株式会社 JTOWER(代表取締役社長:田中 敦史、本社:東京都港区、以下「JTOWER」)と、東京大学との共同研究により設立されたベンチャー企業である株式会社 FLARE SYSTEMS (フレアシステムズ) (代表取締役:中川 貴之、本社:東京都文京区、以下「FLARE SYSTEMS」)はこのたび、JTOWER が提供するローカル 5G 共用装置に FLARE SYSTEMS が提供する Sub6 帯域を活用したローカル 5G SA ソフトウェア基地局を接続し、同期 TDD に加え、準同期 TDD1、準同期 TDD2 及び準同期 TDD3 の実証に成功いたしました。

ローカル 5G(※1)のビル等の建物内や地下における展開においては、壁や床、天井がローカル 5G エリアの電波の障害物となり電波が遮られる課題があります。JTOWER のローカル 5G 共用機では、ローカル 5G 対応の光中継装置により基地局から届く電波をデジタル信号に変換し光ケーブルによって分配することで通信できるエリアを拡張するシステムでこの課題を解決します。

また、ローカル 5G においては、撮影したカメラ映像の送信など、上り方向の通信により多くのリソースを割り当てたいケースが多く想定され、携帯電話事業者の TDD パターンと同期しつつ、一部の下りスロットを上りスロットに変更して運用できるようにする準同期 TDD が有効です。

本実証により、ローカル 5G のエリアを効率的に広げつつ、ユースケースに応じて、上りの通信帯域と下りの通信帯域の比率をカスタマイズできることを実証しました。

## ■環境構成図



JTOWERが開発したローカル5G共用装置は、既に商用サービスを提供している携帯電話事業者の5G対応の光中継装置との一部共用が可能となり、効率的なネットワーク整備が行えることが特徴です。このたびの実証の成功を受け、JTOWERはFLARE SYSTEMS製ローカル5G基地局との接続を始めとして、様々なローカル5Gシステムとローカル5G共用装置との接続実証を推進し、幅広い施設の特徴に応じた最適なネットワーク構築を提供いたします。

FLARE SYSTEMSは、2022年2月28日に発表したFLARE SYSTEMS社製ソフトウェア基地局（※2）の提供による、シンプルに構成するユースケースへのローカル5Gシステムの展開に加え、JTOWERのローカル5G共用装置との接続により、より柔軟なエリア構築を実現できるユースケースへの展開を可能とし、広くローカル5Gの普及、社会課題解決に向けたDX実現に貢献してまいります。

以上

※1 地域や産業の個別のニーズに応じて地域の企業や自治体等の様々な主体が、自らの建物内や敷地内でスポット的に柔軟に構築できる5Gシステム。

## ※2 FLARE SYSTEMS 製のローカル 5G 基地局の特徴



可搬性

5Gシステムに必要な要素すべてを1つの汎用サーバに実装し、可搬性を実現



省エネ

消費電力150W以下、市販のポータブル電源等で稼働可能



準同期対応

3つのTDD準同期パターンに対応  
アップロード通信の高速化も可能



5Gコア一体型基地局

※ 記載されている会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。

<本件に関するメディア関係からの問い合わせ先>

株式会社 FLARE SYSTEMS

E-Mail : [contact@flare-systems.co.jp](mailto:contact@flare-systems.co.jp)

<本件に関するお客様からの問い合わせ先>

E-Mail : [sales@flare-systems.co.jp](mailto:sales@flare-systems.co.jp)